

# 我が人生

亀井 清

昭和43年3月学部卒業

## 1. 生い立ち

幼稚園で時計を読めたのが私だけだったので、先生が時間を教えてほしいとよく言われた。大阪学芸大学（現教育大学）附属平野小学校中学校の入学試験の面接で、4人でリーグ戦をすると何試合かとの問題に、AB, AC, AD, BC, BD, CDの6試合と即答すると、面接官は驚いていた。小2のテストで人間の体温は何度かとの問題に、37度と答えたのは私だけだった。中1で卓球部を作り、中3で近くの10校くらいの中学校ブロック大会で、個人戦と団体戦両方優勝した。音楽会では中1でバイオリン中3でトランペットの独奏をして、2種類の楽器で独奏したのは他にはいないと思う。数学のプリントの宿題で先生の手書きの解答にほぼ毎回誤記があり、職員室に行くと「またミスですね」と言われた。国語のテストで文法を全問正解したのは私だけだった。英語のテストでMCMDXVを算用数字に直せという問題に、1965と答えたのは私だけだった。天王寺高校の卓球部の団体戦は、常に1番に出場し全試合勝ちました。3年で吹奏楽部初代部長になり、部長交代は卒業式後でした。55年間OB会会長でしたが、昨年名誉会長にされてしまいました。



## 2. 京大時代

教養数学は島田三郎先生、森毅先生など、物理は湯川秀樹先生の3年先輩の田村松平先生であった。体育は身長順に2列に並び私は先頭にいたが、先生はこちら半分は私が見るので残り半分は君にまかすというときもあった。卓球部で2部の試合に1回生で出たのは私だけであったが、2回生の途中で退部した。2回生前半の体育はバスケットを選択し、友達が私にパスしてくれたボールを取ることができなかったこともあった。後半は卓球を選択し、最後に先生が各人の点数を付けるときの相手をさせてもらった。外国語は独語仏語両方を取ろうと思ったが、我家と1番地違いに住んでおられた戸田

宏先生（奥様の姉妹の結婚式の仲人が私の両親）が英語とどちらかでよいとのことで独語ではなく仏語を選択し、他に露語と中国語も取った。

3回生最初は数学科を代表して自治会の会議に出ていたり、宇宙物理と野球の試合をした。夏休みに第2次訪中団に参加し、国交がなかったのでまずホンコンに行きそこから中国に入り、国賓扱いで北京ダックなど各地ですばらしい料理を頂き、北京のホテルが紅衛兵によって宿泊日の夜名前がかえられ、道路の名前も変えられ、我々が帰国したときは文化大革命発生後の最初の帰国者として羽田空港で新聞記者に囲まれた。中国旅行中中国将棋を教えてもらったこともあり、1966年9月16日連珠部（ごもくならべ）を作った。3回生の終わりに小堀憲先生が京都府立大学学長に移られた。

4回生の卒業研究は複素解析を選択し、楠幸男先生に担当していただいた。教育実習に行ったとき、数学の研究授業を本来なら首席の川中宣明君がやるべきところ私にゆずって頂き今でも大変感謝している。夏休みに教育実習で担当した中学生数人を琵琶湖に泳ぎに連れて行った。夏休みの終わり頃数学教室に行ったとき、数研出版の募集があり期日がぎりぎりだったので京大診療所でレントゲンをとってもらいすぐに発送し間に合ったので大学院は受験しなかった。入社決定後授業のない日は会社で早期入社扱いの仕事をした。計算機構論でプログラムを各人が作るが、高須先生が私のプログラムを気に入って「下さい」とのことで差し上げました。卒業式後は学内のプログラム相談室にほぼ毎日かよった。

### 3. 卒業後

入社1年目は大阪の貸ビルの1室に勤務したが、東京と大阪に分かれていると郵便物のやりとりなどロスが多いので1年で閉鎖することになり、2年目以降は東京勤務になり、50歳で浦和支局後にさいたま支局が58歳で閉鎖し、東京本社に机がないので残り2年間は自宅勤務となりました。井川会長、渡辺前会長、同期の川中君には数研出版の教科書の著者になって頂いた。私は在職中最も難しいオリジナルスタンダード数学IIC（前制度では微積確率など）やIIC入試問題集などを担当し、定年退職時パートの人達は亀井さんの担当本を誰が担当するのか心配してくれた。

26歳で結婚し、妻の地元の栗橋で団地が造成されていて28歳で建売を買い、30歳で初代自治会長を2期、現在は総会議長を務めている。地元には老人会とシニアクラブがあり、卓球のコーチと麻雀の世話人をしている。

高校同窓会の常任幹事、東京支部の幹事で総会の来賓接待役、同期東京同窓会の永久幹事で会長と呼ばれ毎年最近は年2回東京大阪合同同窓会を実施している。

連珠六段で、公益社団法人日本連珠社の監事もしている。ほかに、お寺のさそいで御詠歌4級でもある。